

A13c GRB030328 のプロンプト輻射と早期残光

吉田篤正、山崎徹、中川友進（青学大理工）、R. Vanderspek（MIT）、河合誠之、坂本貴紀、鈴木素子、佐藤理江（東工大理）、玉川徹（理研）、白崎裕治（国立天文台）、松岡勝（JAXA）、鳥居研一（阪大理）、G.R.Ricker（MIT）他 HETE-2 チーム

ガンマ線バースト観測衛星 HETE-2 は、2003 年 3 月に明るいガンマ線バーストを 2 例続けて観測した。このうち、3 月 28 日に発生したバースト GRB030328 は継続時間が長く、2-25keV のエネルギー領域で $T_{90} = 208 \pm 2$ 秒であった。また、赤方偏移は $z = 1.52$ と報告されており、ほぼ典型的な距離で発生したガンマ線バーストであると考えてよい。このイベントで特徴てきなことは、線輻射が終了したバースト終端において、X 線領域でのみ活動性をみせていることである。このような事例は、「ぎんが」衛星や BeppoSAX 衛星の観測でも報告されているが、本講演では Chandra 衛星で追観測された X 線残光の解析と合わせて議論する。